



里山ジオツアーの勧め

筑波山地域ジオパーク推進協議会
大井 信三、小玉 喜三郎、高田 正澄

里山一癒される空間と景観一

筑波山地域の「里山」は山地と平野との境にあって、標高は低いが緩やかな丘陵や上位台地が高原のような空間を作っている。

高原状の丘陵の背後には300~500m前後の山地が聳えているという共通した景観の特徴がある。

この里山の癒される空間と景観が訪問者に心地よさをもたらしている。

これらの筑波山地域の里山には、日本の里山百選に選ばれている「八郷盆地」、つくば市北条から筑波山神社を結ぶ「筑波道」が知られている。しかし今までこれらの里山の背景となるジオ的価値について語られる事は無かった。

なぜ心地よいと感じるのか。



筑波山地域には共通した里山の景観の特徴がある。

里山のジオの法則

筑波山地域での里山の分布（右図赤枠内）

つくば市つくば道、つくば市大形、土浦市山の荘、石岡市八郷盆地、石岡市真家・笠間市岩瀬、笠間市上加賀田、笠間市本戸、笠間市箱田、桜川市門毛など筑波山麓周辺に分布する。

筑波の里山のジオの法則

筑波の里山は、以下の丘陵と上位台地からなる。

丘陵：標高が50~100mの緩やかな丘陵。40~50万年前の海成層である友部層とその相当層からなる。

・友部層の年代が第四紀中期更新世で、さほど古くは無く丘陵が平坦面を残している、高原状の地形をなしている。

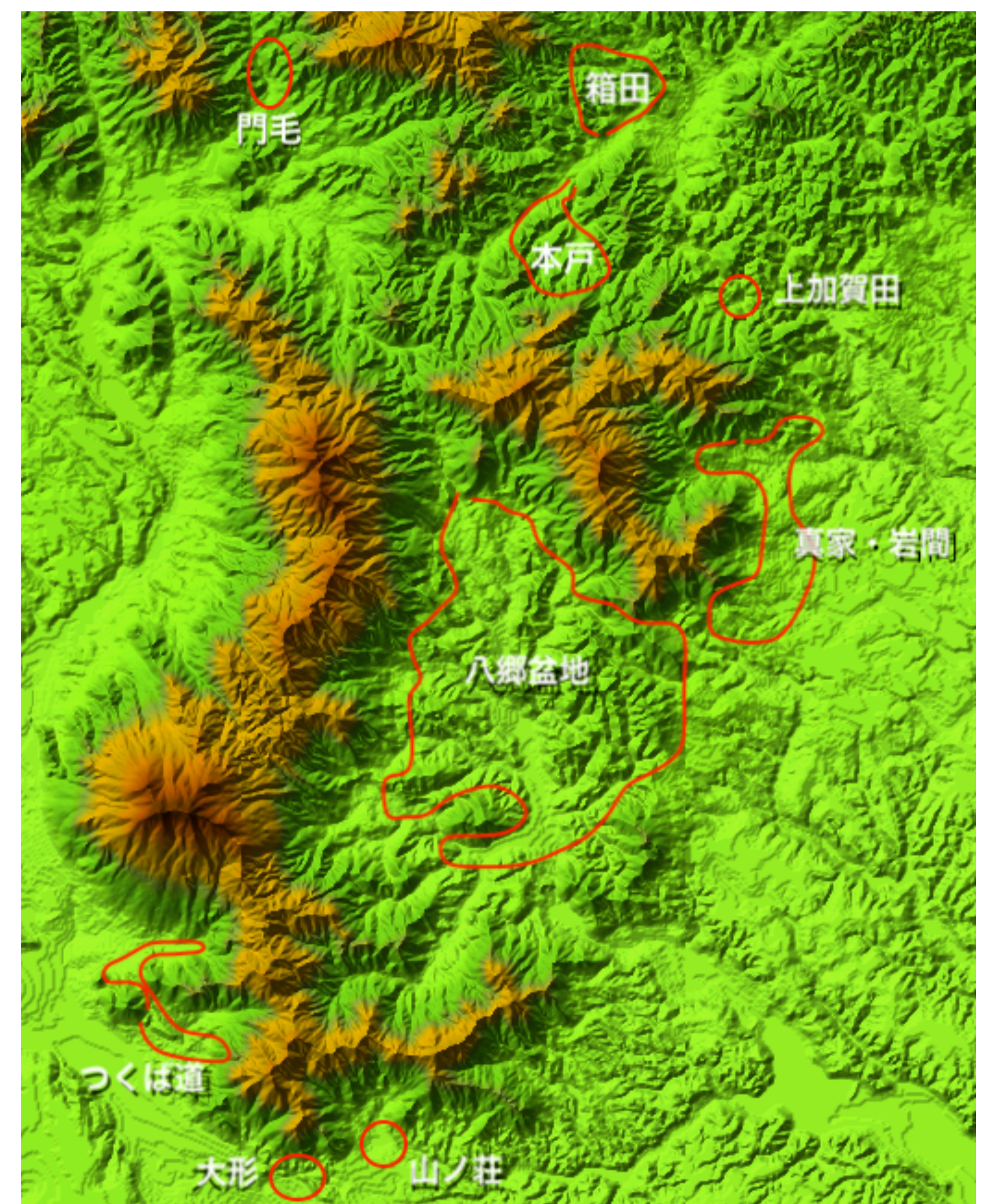
上位台地：標高35~50mの上位台地。12.9万年前の下末吉海進による木下層および見和層の海成層からなる。

・筑波山地を取り囲む上位台地は、筑波台地や新治台地より古い下末吉海進のピーク時の台地である。山地の山際と上位台地の削り残しの場のみ見られ、その当時海岸にあった砂州や砂嘴の地形の痕跡が残されている。

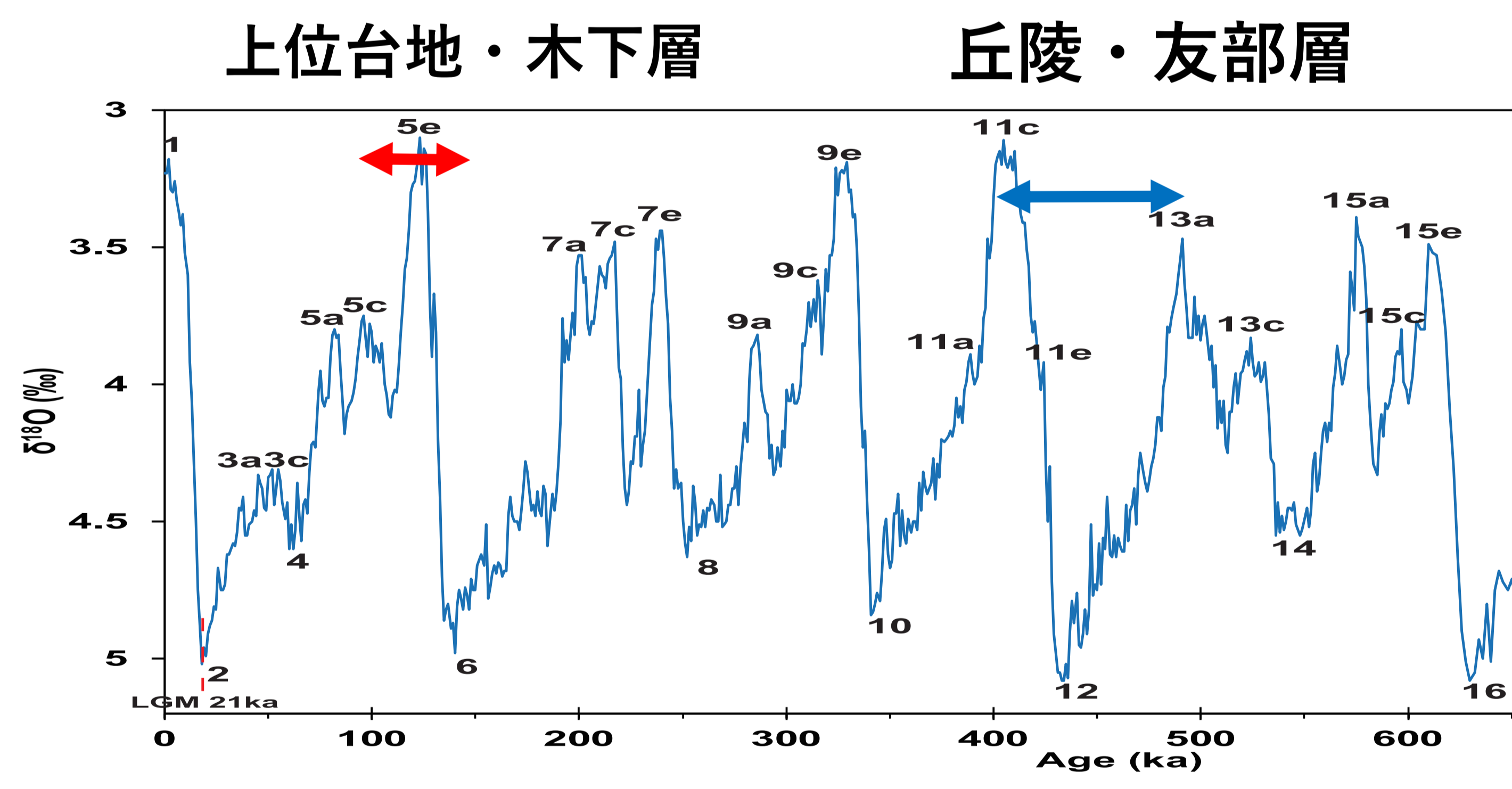
- ・背後に標高300-500mの筑波山地、鶏足山地が聳える。
- ・これらから筑波山麓に2~3回海が入ってきたことを示している。



桜川市門毛の丘の蕎麦の花



筑波山地域周辺の里山

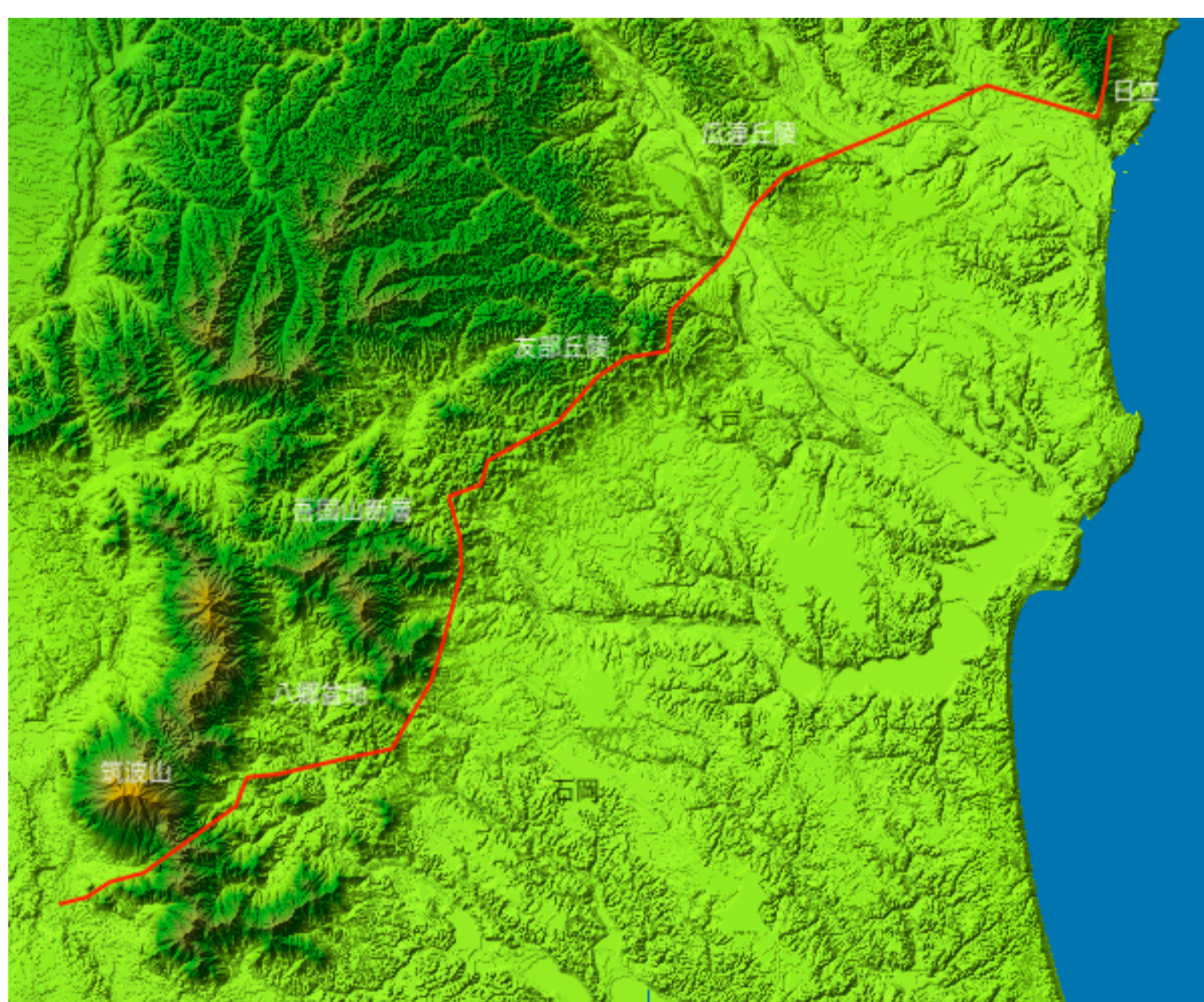


最近60万年間の酸素同位体(MIS)層序



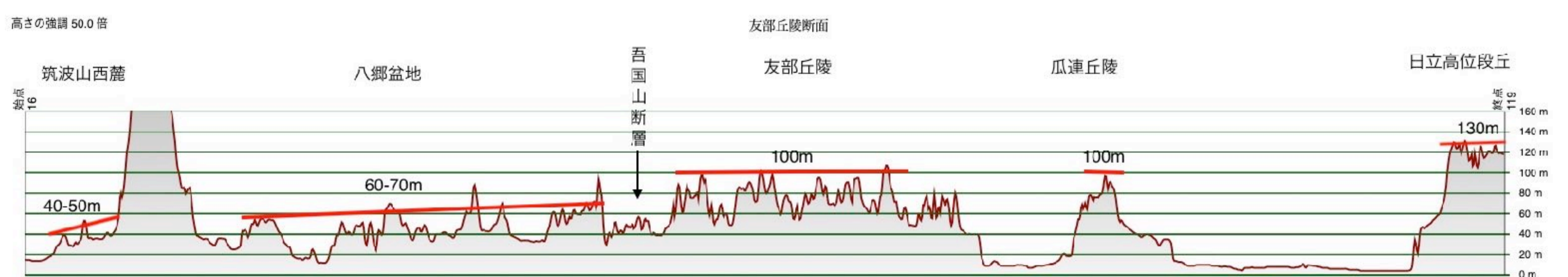
日枝神社の参道、砂嘴の地形の痕跡(上位台地)

丘陵の地殻変動



丘陵の断面位置

日立の高位段丘、瓜連丘陵、友部丘陵、八郷盆地の丘陵、つくば市漆所の高位段丘は、一連の地形面で、その標高は北から130-100-100-60-50mと、南西部に向かって低下する。これは関東平野中央部へ向かって低下している関東造盆地運動の地殻変動による。



丘陵の南西~北東の断面図

沈降

隆起

里山の荒廃

しかし里山集落の人口が減って、人が介入することで維持されてきた里山の二次林や草地在り放棄され、荒廃している。さらに農業の担い手不足で耕作放棄地が増えている。

里山ジオツアーの意義

そこで里山の価値をジオツアーで明らかにし、住民が地元を誇りを持つこと。そしてジオツアーの訪問者と住民が価値を共有し、里山の活性化や保全に取り組むことが求められている。



桜川市門毛の丘のジオツアー